

会長退任のご挨拶

一橋陸上競技倶楽部 前会長 浜 田 愷

私は令和2年3月18日に一橋陸上競技倶楽部の会長を退任しました。

本来は総会の席で会員の皆様に御礼の挨拶をすべきでしたが、予想もしなかった世界的な疫病の蔓延という人類史上初の事件のため、誌上で退任のご挨拶をすることをご容赦ください。

平成28年の始めころ、当時の青木会長から会長職を打診されたときに、正直大変迷い、当初は断るつもりでした。

当時は私の自宅は東京にありましたが、原発事故の紛争処理の仕事に携わっていたことから、職場は東京および福島県にあり、週の半分は東京と福島を約6時間かけて往復しており、時間の関係で倶楽部の業務を満足に遂行することができるか自信がありませんでした。

しかし、私はもともと、一橋大学陸上部に対する愛着だけは人一倍あると自分では思っていましたし、グラウンドには顔を出すことは苦になりませんでしたので、OG・OB会と学生の間をつなぐ役割に徹する気持ちで引き受けました。

会長に就任する前の理事の時代から気になっていたことは、卒業したOG・OBが、早いうちからクラブとの距離をとっていることで、この点は私たちの年代とOBの年代とかなり違っていることでした。

私の会長時代の短い時間でも、若い年代の会員にクラブ、またグラウンドに顔が向くようにいくつか試行してみましたが、まだ成果が上がっているわけではなく、時間をかけて少しずつ改善していけばと思っています。

多くの会員に倶楽部により関心を持っていただくことは時間のかかる課題で、人脈の豊富な、また若い会員に人望の厚い西新会長に期待します。

私は会長職を辞した後は、また1人のOBとして時間の許す限り、また体の動く限りグラウンドには顔を出し、学生と交流したいと思っています。

さらにクラブのもう一つの大きな課題は2023年に陸上部創立100周年を迎え、記念誌の発行、さらに記念式典など大きな行事を控えていることです。この100周年記念事業の企画遂行にもわずかながら助力をしたいと思っています。100周年記念事業が活発な事業になるためには、やはり会員全員のご支援が必要で、また会員の皆様に多々お願いをすることが必ずありますので、その際は快くお引き受けいただけるようよろしく申し上げます。

最後にもういちど、会長時代に私を叱咤激励してくれた会員の皆様、そして何事も共に議論しながら倶楽部を支えた理事・監事の皆様、意見の違いで喧嘩しつつも倶楽部をともに支えた岩瀬副会長兼幹事長に深く感謝します。